

日本性科学会 ニュース

第40巻 第2号

令和3年(2021年) 6月

発行人: 針間 克己 印刷所: (株) 絢文社

第40回 日本性科学会学術集会

期 日: 2021年10月24日(日)

会 場: 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京都千代田区神田駿河台4-6)

学会長: 針間 克己(はりまメンタルクリニック院長)

テーマ: 「Rainbow after the storm」

学会長より

この文章を書いている、2021年5月10日現在、新型コロナウイルス感染症の国内での収束の見通しは立っていません。現在の状況を鑑みながら、学会開催を決断しました。安全性を考慮し、オンラインのみでの開催も検討しましたが、学会開催時には医療従事者のワクチン接種は終了していることが予想され、実際にリアルに集まることも可能ではと考え、会場を確保しました。ただし、ワクチン非接種者、地方在住者、ハイリスク者等も考慮し、オンラインとの二本立て、ハイブリッド形式で開催を予定しています。今後の状況次第では、開催形式の変更もあり得ますので、ご理解ください。

学会のテーマは変更することにしました。「Rainbow after the storm」です。レインボーといえば、性の多様性の象徴としての理解が一般的です。しかし「愛」「希望」といった意味もあります。学会のテーマというより、「無事学会が開催されてほしい」「無事、コロナが収束してほしい」という私の願いともいえるかもしれません。

学会は40回という節目の大会ですが「記念大会として盛沢山に!」と欲張らず、感染に留意し、開くことこそに意味があると考え、シンプルにやりたいと思います。

学会会場で、あるいはオンラインでの参加をお待ちしています。

※第40回日本性科学会学術集会の詳細についてはホームページ(<http://jsss40.kenkyuukai.jp/>)でご確認ください。

訃報

本会名誉理事長の野末源一先生が2021年5月20日に逝去されました。ただいま発行準備中の日本性科学会雑誌Vol.39 NO.1にて追悼特集を組む予定です。

Vol. 40

№.
2

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853 E-mail office@sexology.jp

URL <https://sexology.jp/>

女性性機能外来での活動について

公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院

婦人科医 村田 佳菜子

葛飾区の東部地域病院、横浜元町の女性医療クリニック LUNA で診療をしている婦人科医の村田佳菜子です。3月の症例研究会で、「Vaginismus に対する腔壁ボトックス注入療法」についてお話させていただきました。たくさんのご意見、ご指導をいただきとても勉強になりました。ありがとうございました。

●挿入障害の治癒率

現在、私は女性医療クリニック LUNA で女性性機能外来の診療をさせていただいております。

Vaginismus を含む挿入障害の治療には、従来の心理行動療法に加え、主婦会館クリニックの金子和子先生、佐々木掌子先生にカウンセリングをお願いしたり、女性医療クリニック LUNA の特色でもある骨盤底リハビリテーションを併用して行っております。

挿入障害の方の治療中断率（初回受診のみで再診に来られなかった方を含む）はだいたい3割くらい。治療にすすまれた方の中でみた治癒割合は3割くらい。つまり受診された方全体での治癒割合はだいたい2割くらいとなります。まだまだ不十分な数字ですので、今後は治癒率を向上させるために様々な試みをしていきたいと思っております。

そんな中で、治療意欲が強く、受診期間も長いのに、どうしても心理行動療法に反応しない患者さんとお会い、辿り着いたのが腔壁ボトックス注入療法でした。まだ症例数は少ないのですが、成功例もあり、今後症例を重ねて、適応やより効果的な手技を検討していきたいと思っています。

●女性性機能外来について

さて、女性性機能外来ですが、受診されている方の多くは挿入が困難な状態である挿入障害を訴えて来院されます。次いで挿入・射精はできるけれども性交痛がある方、そして性欲低下の方と続きます。

挿入障害の方は70%を占めており、その数の多さを実感しています。現状ではこのような患者さんが一般の産婦人科を受診された場合、「異常なし」と判断され治療を受けられないことがほとんどです。中には、「産婦人科を受診して解決しなかったんだから、もうなす術がない」と考え、人生から挿入やセックス、パー

トナーまで諦めてしまった方もいらっしゃると思います。本当にもったいないと思います。

女性性機能外来を受診された患者さんは、ほとんどのの方が「やっと話せる場所を見つけた」「やっと原因がわかった」「やっと治療できるところに辿り着けた」と仰います。彼女たちは「運よく」女性性機能外来を受診されたのです。喜んでいただけて本当に遣り甲斐を感じていますが、女性性機能外来が「運がよく」ないとたどり着けないような場所ではいけないと思っています。もっとたくさんの医師が性機能に携わるようになってほしいと願っています。

●医師への教育、情報発信を

挿入障害に関して言えば、頻度は全女性の1%とも15%とも言われています。挿入障害以外の性機能障害を含めると、かなりの数の女性が自身の性やパートナーとの性的な関係に悩まれていることが想像できます。彼女たちに情報を伝えることはもちろんですが、医療従事者側の啓蒙も重要であると感じています。女性性機能に携わる医師を増やすことはすぐには難しいかもしれませんが、医療者が性機能障害を疑うことができ、紹介先を知っているだけでも、これらの女性たちの受け皿はかなり増えると思います。

また、悲しいことに、過去の産婦人科の診察での痛みの記憶から挿入障害になってしまう方もいらっしゃいます。声掛けなしの診察や、性交経験のない女性への不必要な診察は、産婦人科の臨床現場では珍しいことではありません。しかし、被験者の立場にたった愛護的な診察や声掛けは、挿入障害の発症との関連の有無以前の問題で、医学、臨床教育の中で徹底して指導されなくてはいけないことだと実感しています。

目の前の患者さんと向き合い、診療を行うことはもちろん大切なことですが、同時に、こうしたことを発信していくこともとても大切な活動だと思っております。できるところからやっていこうと思っています。

これからの日本の性機能医療に、微力ながら貢献していきたいと思い自分なりに頑張っております。性科学会の方々には、これからもご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

セックスミュージアム設立準備委員会が目指す博物館

セックスミュージアム設立準備委員会代表 イロタカ

●はじめに

セックスミュージアム設立準備委員会は、性の研究を社会に還元する博物館を通じて、性の健康を享受する社会を目指す任意団体です。2018年に発足し、現在は社会人、研究者、医師、大学生など職業等背景が異なる約20名のボランティアが活動しています。幸いなことにボランティアの年齢、ジェンダー、セクシュアリティ、人種なども多様です。この先あらゆるマイノリティに配慮したアクセシビリティを高めていき、よりインクルーシブな団体になることが理想です。

私たちが目指すコンセプトの軸には World Association for Sexual Health の「性の権利宣言」と「セクシュアル・プレジャー宣言」、そして International Council of Museums (国際博物館会議, ICOM) による「博物館の定義」の改定案 (2018) があります。ここではみなさんにあまり馴染みがないと思われる、後者の博物館の話を中心にしようと思います。

●博物館とは何か

従来の博物館の定義では収集、保管、研究、解説、展示の活動を行っているものが博物館であるとされています。現在本委員会では推定約600冊の性に関する寄贈本の保管とデータ化 (収集、保管)、性に関する資料がどこにどのようにあるのか調査するフィールドトリップ「性を探求する場 SEEX」の開催や大学や博物館の調査協力 (研究)、ワークショップの開催 (解説)、海外のセックスミュージアムの事例調査とウェブ上での公開と企画展の開催 (展示) などを行っており、活動内容としては従来の博物館の定義を満たしています。そのため「設立準備委員会」と名乗ってはいるものの、既に博物館であるとも考えることもできます。本委員会の活動に興味を持った方に「どこに作るの?」と度々聞かれるのですが、博物館とは建物だけのことではないのです。

ICOM による「博物館の定義」の改定案 (2018) は以下のように斬新で、従来の定義から更に踏み込んだものです。

「博物館は、過去と未来についての批判的な対話のための、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。

博物館は、現在の紛争や課題を認識しそれらに対処しつつ、社会に託された人類が作った物や標本を保管し、未来の世代のために多様な記憶を保護するとともに、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等な利用を保証する。

博物館は営利を目的としない。博物館は開かれた公明正大な存在であり、人間の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的として、多様な共同体と手を携えて収集、保管、

研究、解説、展示の活動、ならびに世界についての理解を高めるための活動を行うものである。」

突き詰めていくと博物館とは持続可能な社会でしか存在できない存在です。災害や戦争が起きれば破壊され、非民主的な政権下では歴史の証明となる所蔵品が隠されます。国を越えた地球規模での連帯がなくては未来に記憶を残すことはできません。2019年に開催された国際博物館会議京都大会では、発表する博物館がSDGsの何に取り組んでいる博物館が紹介した後、内容に入るという光景が見られました。日本の博物館がそこまでの認識を持っているかと言うと怪しいものの、新しい博物館の考えはここまで来ています。生まれたばかりの本委員会の持続可能性は脆いですが、その模索こそが博物館活動のようにも思い、性の新しい博物館を目指して地道に活動しています。

●これからの博物館

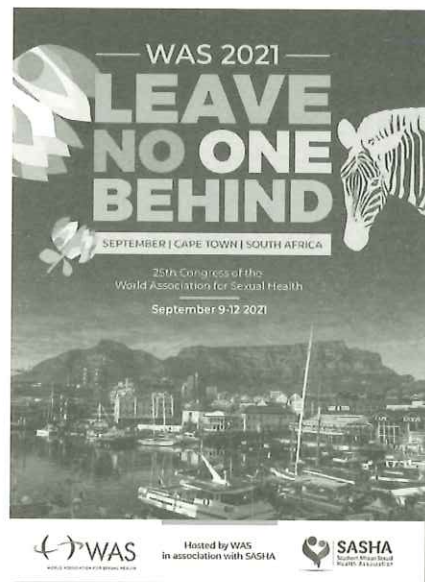
とはいえセックスミュージアムそのものは、別段新しいものではありません。世界最古をうたっている Sex Museum Amsterdam は1985年に設立されました。これは日本の秘宝館に近いアミューズメント色の強い施設です。これに対し人類学的な観点から性を見る「スミソニアン性のセックス博物館」を目指してフェミニストや性科学者が協力して2002年に作ったのがニューヨークにある Museum of Sex です。実はセックスミュージアム設立準備委員会はこの Museum of Sex にインスパイアされて誕生しました。Museum of Sex も設立当初に比べてアミューズメント化が進んでいるようですが、科学的な知見を軸により門戸を広げた博物館となったその姿は今も魅力的です。

秘宝館や性の博物館のアミューズメント化については拒否反応を示す人々もいると思いますが、そもそも博物館のアミューズメント化は今後進むと私は考えています。新型コロナウイルスの世界的拡大の影響を受け、資源的に余裕がある博物館のオンライン化が進む一方で、博物館の空間の代えがたさに気付いた人たちもいました。人の行動が制限される中での息抜きの中としての博物館は、より空間や体感を意識したものになっていくように思います。これは、元来博物館に行きづらかった身体障がい者などのマイノリティが楽しめる空間にするためにも必要なことです。また、国によっては博物館がワクチン接種会場になったところもありました。「新たな博物館の定義 (案)」とは別のところで、博物館はより柔軟な存在に変わりつつあります。セックスミュージアム設立準備委員会は、そのような時代を楽しみ新しい博物館でありたいと思います。一緒にセックスミュージアムを作りたくなった方、ぜひ一緒に活動しましょう。

第25回 2021年性の健康世界学会 (WAS) 大会について

日本性科学会副理事長・WAS 学術委員 早乙女 智子

性科学の国際学会である性の健康世界学会 WAS (World Association for Sexual Health) の第25回大会開催は、「Leave No One Behind」(誰も取り残さない) というテーマで初のアフリカ開催となる予定でした。リアル開催を目指していましたが、2019年末からの世界的な COVID-19蔓延の終息の予測がつかず、2021年9月9～12日にオンライン開催することになりました。WAS は、個人で会員にもなれますが、日本性科学会、日本性教育協会 (JASE)、日本思春期学会が WAS の加盟団体ですので、いずれかの団体に所属していれば WAS 会員として参加できます(登録費、参加費はかかります)。性の健康世界学会 (WAS) の学術委員会は、すべての参加者に、第25回 WAS 会議での口頭発表またはポスター発表の要約を提出するよう呼びかけています。



これまで WAS の大会には、医療従事者、心理学者、社会学者、教育学者、人類学者など様々な専門家や活動家が毎回30名ほど日本から参加しており、参加国の中でも日本は比較的参加者が多い国でした。今回はアフリカで遠いけれど楽しみにしていましたが、オンライン開催になりましたので、今まで行けなかった方も是非ご参加ください。私は前回のメキシコシティ大会に続き、今回も発表準備をしています。2018年から学術委員をしており、英語やスペイン語、ポルトガル語 (!) の抄録の査読や採否も担当しましたが、今は翻訳ソフトなどもありますので、是非、この機会に参加はもちろん、演題申し込みもして頂ければと思います。ご質問がありましたら、新事務局のお二人も WAS 参加経験豊富なのでお問い合わせください。

詳しくは、WAS HP の抄録について <https://was2021.org/abstracts> をご覧ください。日本国内でも性科学の理解や発展がさらに進むように願っています。

【抄録提出について】

- 発表者は、口頭またはポスター発表をえらぶことができます。
- 抄録 (アブストラクト) は、英語、スペイン語、またはポルトガル語で電子的のみの提出となります。
- 採択されたアブストラクトは、登録および登録料の支払いを受領した場合にのみ、アブストラクトブック (デジタル形式) で公開されます。

※アブストラクト提出期限：2021年6月30日、採否の結果は7月31日の予定

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会より

日本性科学会理事 (資格認定委員長) 大川 玲子

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、ならびに更新規定に基づき、2021年度の新規資格認定ならびに更新資格認定をおこないます。

なお、資格認定申請期間は、新規・更新ともに2021年8月1日～31日です。新規資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局までご請求ください。資格更新該当者は、事務局より7月中に更新申請書類を送付いたします。

いずれの場合も資格認定規定をご熟読の上、ご申請下さい。ご不明な点は学会事務局までお問い合わせください (メール: office@sexology.jp 電話: 03-3868-3853 受付時間: 月・水・金 11:00～14:00)。